

残り30日。その2

さらに、センター試験への仕上げのもう一つの大切さは、各教科のバランスです。

特定の教科が平均点や、他の受験生と大きなハンデが生まれると、取り返しがつかなくなるのがセンターの特徴です。

できることなら、1日目(令和2年1月18日(土))の地理歴史・公民(9:30~11:40)(100点×2)、国語(13:00~14:20)(200点)、英語(15:10~16:30)(200点)、英語リスニング(17:10~18:10)(50点)を文系で500点以上、理系で420以上でカバーしたいところです。

すると、650点満点での500点以上ですから、150点までは間違えることができるので、仮に、地歴公民・国語・英語で8割取れば、リスニングで5割でも、大丈夫です。

この500点以上の点数のアドバンテージが、2日目を乗り切る大きな階段となります。

2日目(令和)2年1月19日(日))は、理科①(9:30~)(100点×2)(200点)、数学①IAかI(11:20~12:20)(100点)、数学②II BかII等(13:40~14:40)(100点)、理科②(15:30~17:30)(200点)、で、文系で220点以上取れば、全体で8割圏内までに近づきます。理系で、300点以上取れば、これも、全体で8割圏内までに近づきます。

こんな下算段をもって、二日間を戦う中で、いかにこの上澄みを確保するか、落としても、どの圏内でとどまるかが大きな分かれ道になるのです。

捕らぬ狸の皮算用であってはなりません。どれだけ確信として、最低点を位置づけることができるかが大切なのです。

「センター試験」の受験案内を細部までもう一度読みましょう。当たり前と思っても、見逃しているところはたくさんあります。センター試験後の国公立大学への願書提出は、前期と中期と後期を同じ時期に提出するということや、リスニングの機器の扱い方や、1科目だけマークする回答科目欄のことや(過去にここにマークをし忘れて、英語が0点になった生徒もありました)、きちんと把握しておかないことがありますから注意しておいてください。

あとは、毎日のルーティンの積み重ねと、この期間の最後の1月16日と17日に、今までやったことに対する総復習を確認する準備をしておくことが肝要です。1年の締めくくりまで、頑張っていきましょう。